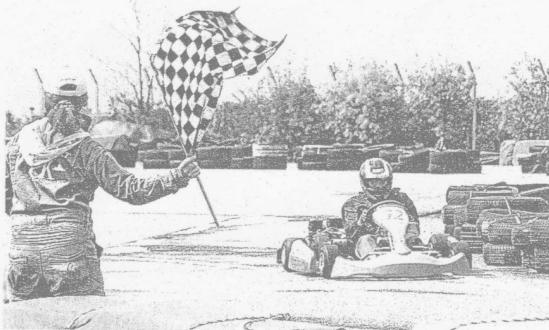




直線で「ぐつ」とアクセルを踏み込むと、風が体に吹き付け、車体がビリビリと震えた。エンジン付きのスポーツカートで本格コースを運転できる「舞洲インフィニティサーキット」(大阪市此花区)。足を運び、レーサー気分を味わつてみた。

スタッフからカートの操作方法や注意事項を聞いた後、ヘルメットと軍手を着け、排気量200ccのカートに乗り込む。最高速度は60キロだが「ま

## 大阪・舞洲のサーキット



スポーツカートを楽しめる「舞洲インフィニティサーキット」=大阪市此花区



## 本格カートでレーサー気分

ともに風を受けるので、体感速度は120キロ(サーキット)

トの福岡幸久マネジャーによると、自分でキーを回し、エ

ンジン始動。全長450㍍のコースに出ると、まず待ち受

けてのが連続カーブ。かなり強い遠心力で左右の車体フレームに体がぴたりと押し付けられた。

ハンドルは重く、車体の向

きとスピードを維持するのに肩や腕に入る力はかなりのものだ。「遊びでありながら、立派なスポーツですよ」と乗

ったとと思っていたが、初心者の平均タイムとほぼ同じかやや遅いぐらいという。タイムは一番速い周で1分5秒台。

舞洲インフィニティサーキット  
大阪市此花区にあるサーキット  
一般客は5千円で、  
ヘルメットなどのレンタル料も含まれる。団体貸し切りや、仲間同士でレース

を体験できるパックもある。年会費5千円で会員になると、割引を受けられる。  
姉妹カート場に「スポーツカート阪奈」(奈良県生駒市)、「グイック浜名」(浜

松市)などがある。

回来るという男性は「普通の道路と違いアクセル全開で走ることができ、爽快感がある」と満足げだった。

私は北朝鮮に帰国した3人の兄とその家族がいます。だから「帰國同胞」という特別な人たちではありませんが、普通に暮らしている人々多くの時間を過ごすことができました。それを観客の人たちと分かち合いたかったのです。

父は在日朝鮮人総連合会(朝鮮総連)の活動家。北朝鮮に帰国した兄たちに母はせつせと生活物資を送り続けた。その家族たちの姿を描いたドキュメンタリー映画「ディア・ピヨンヤン」を2005年に発表。最新作「愛しきソナ」は続編といえ

## 家族を撮り継

治的な日常を描くことでブレンンドされ、ちょうどよくなるのではと思いました。



ソナはすぐかわいい。叔母がめい子を思ふ気持ちばかりこの国であれ一緒に思つんです。本当はソナをもっと長く撮りたかった。結婚したり、おかあさんになるまで…でも、前作が原因で、私が北朝鮮に入国できなくなつて。自分としては、家族に迷惑を掛けるかもしれない中で覚悟してやつてしまつなんで、「家族の話(を撮ること)はやめません」

「映画を発表することで平壌の家族に迷惑が掛からないか」。こんな残酷な質問を投げ付けても、真正面から答える

兄たちやその家族に迷惑を掛けないか、今も毎日、本当に心配です。

「ディア・ピヨンヤン」を10年かけ

ないことを話すのに、「録画しないで」と判断させる環境とは何なのかということを観客に感じてもらいたかったんです。ああいう部分がないと、ただのかわいい女の子の成長記になってしまい、映画にする必要もないと思つて。

# くろぎ

